

お知らせ

記者発表資料

令和元年 8 月 27 日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

～南海トラフ地震の多様な発生形態に備えて～
**第1回「南海トラフ地震臨時情報に伴う防災対応
中国ブロック連絡会」を開催します**

◇南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応については、今年3月にガイドラインが公表され、5月に国の基本計画に位置付けられ運用が開始されました。一方で、都府県・市町村等の南海トラフ地震防災対策推進計画・地域防災計画への反映はこれからの状況であり、計画策定を早期に推進するためには各策定主体の検討状況や課題についての情報共有や意見交換が不可欠です。

◇計画策定の早期推進を図るため「中国地方の防災に関する連絡会（南海トラフ巨大地震対策計画専門部会）」のワーキング・グループとして、5県2市及び国の行政機関を構成員とした「南海トラフ地震臨時情報に関する中国ブロック連絡会」を開催します。

1. 開催日時 令和元年 9 月 2 日(月) 13 時 00 分～15 時 00 分

2. 開催場所 広島市中区八丁堀 2-15
中国地方整備局 建政部 3F 会議室（別紙 1 参照）

3. 議題

- (1) 推進計画策定に向けた今後の進め方等
- (2) モデル県の先進事例紹介
- (3) 情報共有・意見交換
- (4) その他

4. 参加機関 参加機関一覧表のとおり

5. その他 会議は非公開。ただし、会議冒頭のみカメラ撮り可。
ご質問については、連絡会終了後に対応させていただきます。
取材をされる方は、当日会場入口の受付までお越し下さい。

【問い合わせ先】

・会場等に関する問い合わせ先

中国地方整備局 災害対策マネジメント室 室長 あかほし つよし
赤星 剛
課長補佐 にこ しんや
兒子 真也

電話番号 (直通)082-511-6481

【広報担当窓口】中国地方整備局 広報広聴対策官 いわ した よし ひさ
岩 下 恭 久 (内線 2 1 1 7)

さか もと やす まさ
企画部環境調整官 坂 本 泰 正 (内線 3 1 1 4)

電話番号 082-221-9231 (代表) (平日・昼間)



・ 会議内容に関するお問い合わせ

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）付

参事官補佐 かわもと さとし
川元 智司

主査付 やまだ ひろき
山田 浩輝

電話番号（直通）03-3501-5693

【参加機関】

・ 地方公共団体

鳥取県
島根県
岡山県
広島県
山口県
岡山市
広島市

・ 国の機関

内閣府 政策統括官（防災担当）
中国四国管区警察局
総務省中国総合通信局
厚生労働省中国四国厚生局
経済産業省中国経済産業局
国土交通省中国運輸局
国土地理院中国地方測量部
気象庁広島地方气象台
防衛省中国四国防衛局
海上保安庁第六管区海上保安部
海上保安庁第七管区海上保安部

【事務局】

中国地方の防災に関する連絡会（事務局：中国地方整備局）

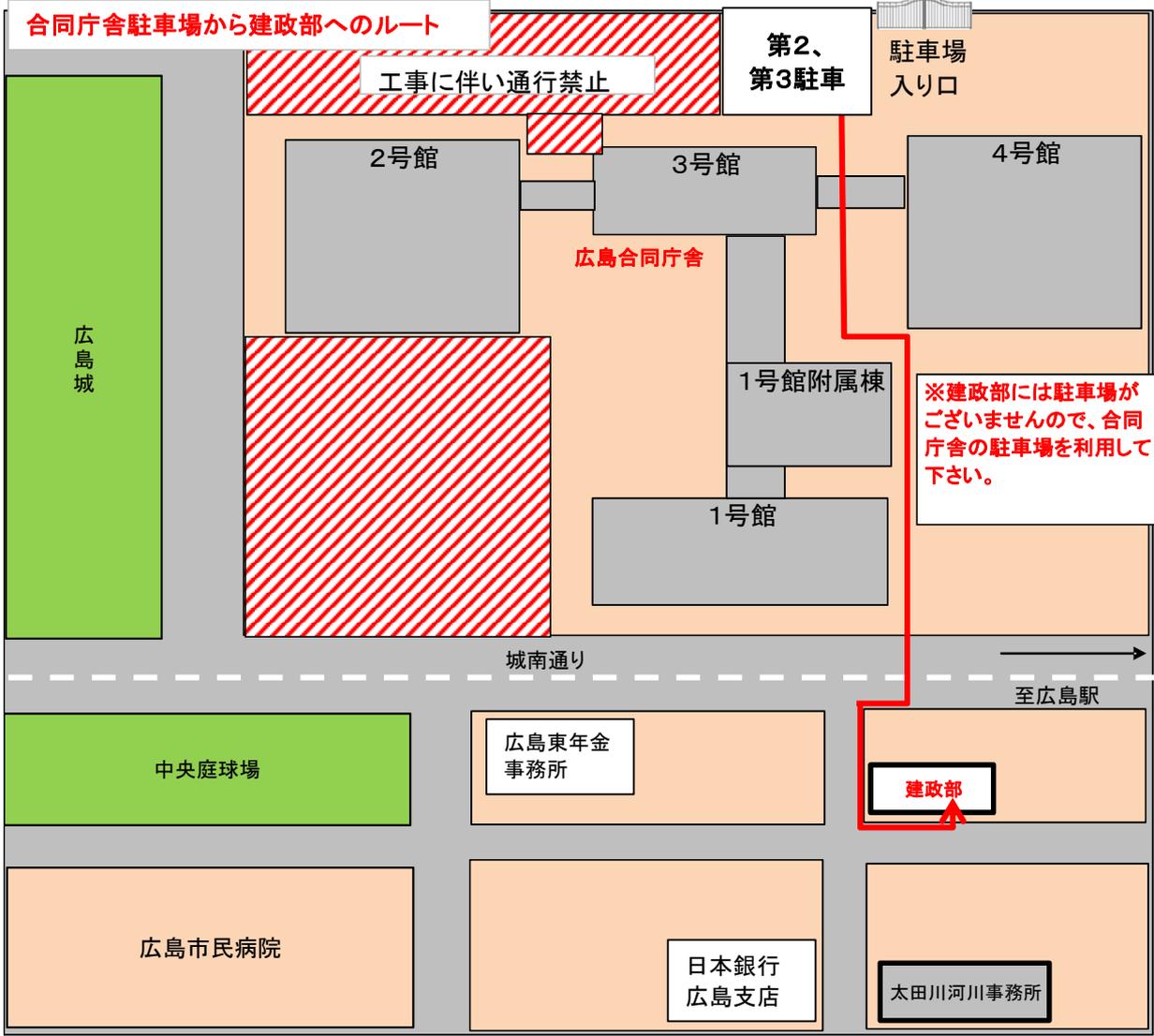
参考：内閣府 南海トラフ地震対策

URL：<http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/>

http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/honbun_guideline2.pdf

会場案内図 (建政部)

建政部 3F会議室
広島市中区八丁堀2-15



防災対応を取るべきケース

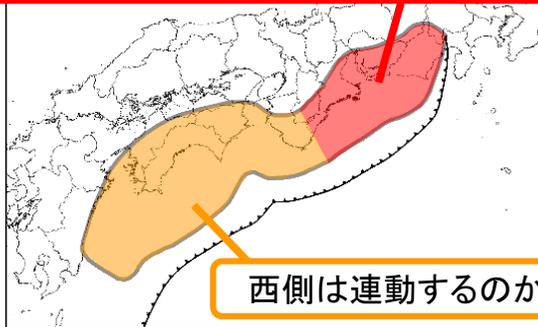
○M6.8程度以上の地震が発生した場合やプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべり等が発生した場合、それらに対する調査を開始し、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された際には、以下の3ケースに応じた防災対応を取る

半割れ(大規模地震 **M8.0 以上**)/被害甚大ケース

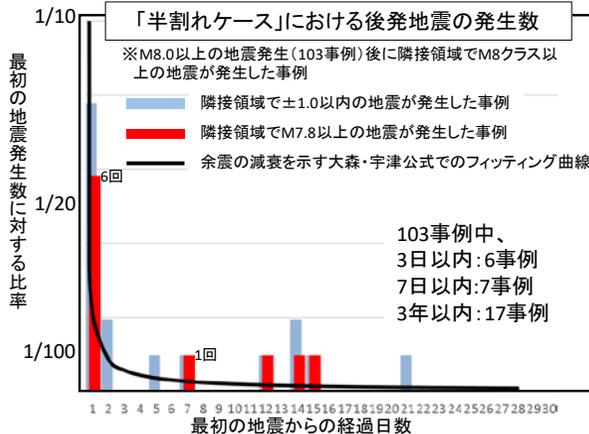
<評価基準>

- ・南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生



西側は連動するの?



7日以内に発生する頻度は
十数回に1回程度
(7事例/103事例)

通常の100倍程度の確率

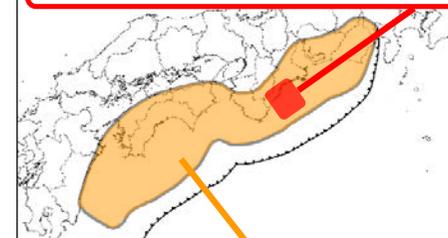
※通常
「30年以内に70~80%」の確率を7日以内に換算すると千回に1回程度

一部割れ(前震可能性地震 **M7.0 以上** / **8.0 未滿**)/被害限定ケース

<評価基準>

- ・南海トラフの想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合(半割れケースの場合を除く)

南海トラフで地震(M7クラス)が発生



南海トラフの大規模地震の前震か?

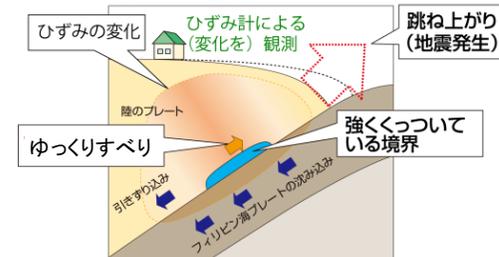
7日以内に発生する頻度は
数百回に1回程度
(6事例/1437事例)

通常の数倍程度の確率

ゆっくりすべり/被害なしケース

<評価基準>

- ・ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



異常な現象を観測した場合の情報発表までの流れ

観測した
異常な現象

南海トラフの想定震源域
またはその周辺で
M6.8程度以上の地震が発生

南海トラフの想定震源域の
プレート境界面で
**通常とは異なる
ゆっくりすべりが
発生した可能性**

異常な現象に
対する評価
(最短約30分後)

気象庁が「**南海トラフ地震臨時情報(調査中)**」を発表

有識者からなる「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催し
起こった現象を評価

**プレート境界の
M8以上の地震
(※1)**

**M7以上の地震
(※2)**

**ゆっくりすべり
(※3)**

左の条件を
満たさない
場合

評価の結果
発表される情報
(最短約2時間後)

**南海トラフ地震臨時情報
(巨大地震警戒)**

**南海トラフ地震臨時情報
(巨大地震注意)**

**南海トラフ地震臨時情報
(調査終了)**

※1 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合(半割れケース)

※2 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生した場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生した場合(一部割れケース)

※3 ひずみ計等で有意な変化として捉えらえる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合(ゆっくりすべりケース)